

西区のはまなす幼稚園と手稲区の手稲中央幼稚園は研究のテーマを共通に「みんなのステキが輝く☆幼稚園を目指して」と設定し合同で研究を進めてきました。今回の研究通信では両区の研究のまとめについてお伝えします。

研究主題 「質の高い幼児教育の実現に向けて」(札幌市立幼稚園共通)
～つながるひろがる札幌市の幼児教育～

研究副主題 「一人一人に寄り添い、共に育ち合う集団作りのために」(西区・手稲区共通)
みんなのステキが輝く☆幼稚園を目指して
～どの子にとっても楽しい!つながりと育ち合いを生む環境と援助～(手稲区)

今年度は、特別な教育的支援を必要とする子ども(一人一人の子ども)の遊びを支えることにより、周りの子どもがどう育ち、どんな育ち合いにつながるかを深掘りし、育ち合いのための教師の援助や環境構成などを実践事例を通して探っていきたく考えた。

実践事例研修の話し合いから

【事例】

○ A 児の見取り

- ・ ルールは分かっているが、負けることを受け入れることが難しい。友達と一緒に遊びたい気持ちから、苦手意識のあることにも参加しようとするが増えた。

○ 教師の願い

A 児 : 負けて悔しい思いをすることもあるが、自分なりに気持ちに折り合いを付ける経験をしてほしい。

B 児 C 児 : ルールを曲げる必要はないが、みんなで楽しく遊ぶためにはどうしたら上手くいこうかと自分たちなりに考えてほしい、いろいろな友達がいることを受け入れてほしい。


=話し合いから= 育ち合いにつながる援助のポイント



- ・ A児の「友達と一緒に遊びたい」という思いを汲んだ、周りの子どもへの援助があった。
- ・ B児、C児にとっては、いろいろな友達がいる、いろいろな思いがあることを知る機会であり、ルールを守らないことを不満に思っても、戻ってきたA児を受け入れ、納得できるような援助が大事だと思う。
- ・ この子は〇〇だという知らせではなく、思いやる雰囲気作りを丁寧にしている。A 児だから特別ではなく、B 児も C 児にもみんなにとって必要な支えになるようにしていくとよいのではないかな。
- ・ 抜け道は、決まったルールにはまるのが難しい子にとっては大事なかもしれない。A 児にも周りの子にも柔軟性が必要であり、それぞれの思いが育ってきている。今後は、友達が A 児の思いを察し、どうしたらいいかということ教師も交えて考えられるようにしていくとよいのではないかな。




今年度の研究から分かってきた「育ち合いの援助」のポイント



どの幼児にとっても分かりやすく楽しめる遊びや環境を構成する

友達と繋がり育ち合うために一人一人の子どもを支える




互いを理解し友達と繋がり合えるように手助けする

認め合う、居心地のよい雰囲気や空間を作る

一人にとって必要なことは、みんなにとっても必要なことだと感じられるようにする

自己承認と他者承認をUPするように働き掛ける



抜け道や選択肢があってもよい雰囲気を作る



これらのポイントを意識した実践を目指したい

みんなのステキが輝く幼稚園とは


いろいろな友達がいるからおもしろい！楽しい！と感じられる幼稚園

この目指したい幼稚園のために…

事例にあるように、一人一人の子ども(A児)の言動の解決を目的とするのではなく、周りの子どもたちの思いに気づき、思いやる雰囲気を作ることで、一人にとって必要なことは、みんなにとっても必要だと感じられるような実践につなげたい。そのためには、周りの子どもたちを含めた、一人一人の思いや感じていることを、まずは、教師がまるごと受け止める援助を考えることが大切である。このような実践には、今年度取り組んできた研究により分かってきた「育ち合いの援助」のポイント(上記)を、より強く意識していく必要があることが分かった。

研究内容に関わり、保護者アンケートから、以下のような感想をいただいている。

- ★その子らしさが大切にされ、一人一人の良さが活かされる。
- ★いろいろな友達と関わることができて、影響を受け合える。
- ★一人一人が生き生きとありのままの自分を出せる幼稚園。
- ★どの子にとっても自分らしく、自然体で過ごせる大切な居場所。



幼稚園はいろいろな友達がいるからおもしろい！楽しい！

はまなす幼稚園の研究

R5年度 研究の重点

みんなのステキが輝く☆幼稚園を目指して ～育ち合いにつながる“その子らしさ”の見取りと 援助の方法を深めよう～

今年度は、一人一人に寄り添い、個々の実態に合った援助をすることをベースに、一人一人の良さや個性、その子らしさを捉え支えることが、周囲の幼児にどのように影響し、どのような育ち合う姿が見られるのかを見取っていきたいと考え、研究の重点をこのように設定しました。

“育ち合い”は『互いに影響し合いながら、学んだり成長したりすること』

“ステキ”は『よさや個性、その子らしさ』

と押さえ、実践事例を通して話し合ってきました。



…例えば、このように話し合ってきました…

一人一人の得意なことが生かされ、遊びが充実した事例

いつも誘い合って一緒に過ごしている気の合う3人組。毎日、いろいろなお店ごっこをして遊ぶことを楽しんでいました。遊び出そうとする勢いがある A ちゃん、友達のアイデアを聞いて「それいいね!」と最後まで品物を作り上げる B くん、人と関わることが好きで、接客のイメージを表現するのが得意な C ちゃん。

教師は、3人の関わりの中で、それぞれの得意なことが生かされるような援助や、友達のよさを感じられる言葉掛け、お店屋さんの遊びが楽しくなるような援助をしてきました。

★教師の援助

Aちゃん

「〇〇ごっこしよう!」
(遊びのアイデアを出すことが得意)

★アイデアを具体的に二人に伝えられるよう、一緒に考える



Bくん

「じゃあこれ作るね!」
(最後まで作り上げるのが得意)

★品物を作る過程を手伝う



Cちゃん

「私たちのお店に来てくださーい!」
(イメージを表現することが得意)

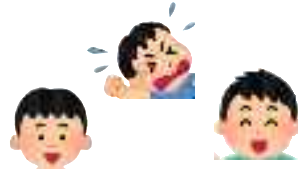
★お客さんにイメージが伝わりやすくなるように言葉や動きを補足する





事例を受けて、下記のような視点をもとに話し合いました。

- “その子らしさ” の見取り～幼児の姿をプラスに捉える～
- どこが育ち合いにつながる？
- 相手への影響
- 必要な援助は？
- 今後の育ち合いにつなげるには？



話し合いから分かったこと（一部抜粋）



育ち合いの姿は・・・

- それぞれが得意を生かし、相手の苦手なことを自然とカバーしているような姿。
- 一人では叶わなくても、3人いることで実現できる、という経験を積み重ねてきたことで遊びが充実し、自分たちでやってみようとするようになった。
- 「これは自分ができる!」と思える得意なことがあることが、3人の関わりの中で自信になっている。

育ち合いにつながる教師の援助は・・・

- 3人の関係性やその子らしさを捉え、3人のよさが響き合うように継続的に支えてきたこと。
- 得意を発揮し、「友達が喜んでくれた!認められて嬉しい!」など関わりの中で自信をもてるような援助。
- 一人一人に必要な援助と、遊びが充実するための援助の両方が、それぞれの刺激や自信につながり、育ち合いにつながった。

今年度の成果



育ち合いにつながる見取りと援助のポイント

その子らしさをまるごと肯定的に受け止める

そのためには、一人一人の幼児に願いやねらいをもちつつ、「こうでなければならない」と決めすぎない柔軟さをもった教師の関わりが大切である。

その中で、

- ・自分でやりたいことを決めていると思える環境をつくることで、その子らしさが発揮できるようにする。
- ・様々な選択肢があり、「いろいろな楽しみ方があっていいんだ!」ということが幼児にも伝わるようにする。

得意な部分に目を向ける

苦手な部分やできないことばかりをクローズアップするのではなく、得意な部分を見取り生かす援助をすることで、遊びが充実したり、友達との関わりの中で認められているという自信をもったりできる。また、周りの幼児も、その子の得意やよさに気付いたり、思い出され共有されたりする。

共に過ごす友達の関係性を丁寧に見取る

それぞれの幼児のよさで友達に関わろうとする姿をタイミングよく支えることで、自分らしさを発揮でき、自信をもって人と関わったり、友達と関わる楽しさに気付いたりできるようにする。



今年度の研究を通して確認した、はまなす幼稚園が考える育ち合いとは

『互いに影響し合いながら、学んだり成長したりすること』

具体的には・・・

- ・自分や友達のよさや得意なことを知りお互いを尊重しながら、それぞれに自分らしさを十分に発揮して友達と関わることを楽しむ姿。
- ・一緒に遊んでいなくても、幼児同士の直接的な関わりがなくても、同じ場にいるだけでなんらかの刺激を受けている。



みんなのステキが輝く幼稚園とは!



最後に、私たちの目指す“みんなのステキが輝く幼稚園”とは、一人一人のやりたい遊びができる環境と、ありのままを受け止める教師がいることで、一人一人が価値ある存在として認められ、その子らしさが互いに響き合って遊びが充実し、友達と関わる楽しさを味わえる幼稚園なのだと考えます。

改めて、私たちがあたりまえに生活している幼稚園～同じ場や離れた場所から、友達がしていることや教師の関わりが目に入ったり感じたりできる生活そのもの～が、育ち合いに大切な環境である、ということが確認できました。

前年度に引き続き、『東洋大学 福祉社会デザイン学部 子ども支援学科 教授 内田 千春氏』をアドバイザーに迎え、研究を進めてきました。今年度の研究のまとめにあたりご助言をいただきました。



どの子ども大事～思いやる雰囲気あふれる園づくり

手稲中央幼稚園の保育から、特別な教育的配慮を必要とする子どもへの配慮は、結果的にどの子にとっても過ごしやすい幼稚園につながっていることがわかります。自分の思いが受け入れられやりたいことができているとき、その子自身にゆとりが生まれ、他児を受け入れることにつながっていききました。おだやかな雰囲気がかかわれる機会があるとお互いのことがよく見え、新しいかかわり方が生まれます。自分とは違う友達を受け入れるには、教師のかかわり方はもちろんですが、子どもたちがお互いについて「こんなすごいところがある」「そういう気持ちになることもあるよね」「できないこともあるよね」と、少し鷹揚なゆったりとしたらえかたができるとうきそうです。

とはいえ、居心地のいい場所はただ楽しくいられる場所というだけではありません。その集団のメンバーであるという所属感を持つには、そこで行われていることに参加し貢献していると感じられる必要があります。どの子にも居心地のいい場所は、一人一人が参加しやすい、互いの思いを大切にし合える場所であるという研究の結論に心から納得しました。

先生方が理念を共有し取り組んでいらっしゃる事が保護者にも伝わっているのが素晴らしいと思います。きっとこの裏には、日々先生方が保育について語り合う風土があるのでしょう。豊かな事例からのたくさんの気づきと学びをありがとうございました。

お互いを認め合う関係の中で、自分を知る、友達を知る⇒育ち合う、輝き合う

はまなすの先生方が「その子らしさをまるごと肯定的に受け止める」ことについて書かれている中に、教師がねらいを持ちながらかわっていくことと同時に、一人一人の子どもの「やりたい」を大事にするのだとありました。そこで「ねらいを持つこと」と、「決めすぎない」柔軟さとはどういうものかを、改めて考えてみました。その子を受け止める中でねらいや期待は、その子の未来に向けての教師の思いです。一方、一人ひとりを受け止めるかかわりは、今この時のできごとです。この2つは、どう両立しているのでしょうか。

友達とかかわって遊ぶ姿がみたい、友達の気持ちに気づいてほしいというねらいや期待を持つとき、「入れてって言うてみようか」「一緒にやろうよ」と声をかけたくくなりますが、まずはそのときの子どもの思いを捉えることが大事にされています。そして、園内で話し合い複数の視点からその子について考えることで、一見困った行動のように見えることの中にあるその子らしさを「よき」として捉えることができるようです。

そんな教師がそばにいて、ありのままの自分として自分なりに工夫したり考えたりしていいんだと心から子どもが思えます。そして個々の遊びが充実していくと、その子自身がおもしろいと思いついて没頭している遊びは、周りの友達にとっても魅力的になっていました。じっと見ていたり、つい近くに寄って行ったり。すぐに参加しなくても、次の日なんとなく同じ遊びを近くで始めていたり。

育ち合いは、直接かかわっている時だけに起きるのではなく、少し離れてお互いを意識し合っている時、場を共有しているだけの時にも起き得る。この発見が、先生方のねらいを持ちながらも決めすぎない柔軟さにつながったのではないかと考えています。たくさんの気づきと学びをありがとうございました。



来年度も西区はまなす幼稚園と手稲区手稲中央幼稚園は同じ研究主題・副主題・重点で連携して研究を推進します。

引き続き研究便りは西区、手稲区に発信させていただきます。よろしく願いいたします。